

三重県における商業教育の動向について

三重県教育委員会事務局高校教育室・指導主事 伊藤 文子

本県では、社会の急激な変化や、生徒・保護者及び地域社会からのニーズ等に対応するとともに、地域から信頼される活力ある学校づくりを推進するために、学科・コースの改編等を行ってきており、学校の特色化・魅力化を進めている。

商業学科については、総合学科や情報学科への改編等により在籍生徒数は減ってきているが、商業教育がこれまで担ってきた教育内容（ビジネススキル・ビジネスマナーの習得、販売実習等）を教育課程に位置づける学校が多くあり、普通科高校や他の専門高校においても、ビジネス教育が展開されているといった状況となっている。

●商業に関する学校・学科（学級数）の設置状況 (平成20年度)

学校名 \ 学科名	商業	ビジネス	情報ビジネス	情報コミュニケーション	情報処理	情報システム	国際	商業科合計
四日市商業	5				2			7
津商業		5				2		7
松阪商業			3			1		4
宇治山田商業	4				1		1	6
上野商業			1					1
白山				1				1
尾鷲			2					2
北星(定時制)			1					1
合計	9	5	7	1	3	3	1	29

少子化の影響を受け、商業科廃止の方向も含めて地域でその在り方を検討していた白山高校については、平成18年度に「情報コミュニケーション科」へ改編し、将来の職業人として必要な「コミュニケ

ーション能力」を重視した教育を推進するための改編を行った。小規模校の力強い改革では、地元の中学校や地域との連携に、商業教育が大きく位置づけられており、「三重の商業」が守りから攻めに転じる1つのきっかけになったと考えている。

●商業に関する学科の新設・改編・廃止等の状況 (平成6年度以降)

年度	学校名	内容
6	亀山	商業科を情報オフィス科に改編
	木本	商業科を総合学科に改編
7	名張	商業科を情報ビジネス科に改編
13	津商業	商業科をビジネス科・国際会計科に、情報処理科を情報システム科に改編
	名張	情報ビジネス科・会計科を総合学科に改編
14	尾鷲	商業科を情報ビジネス科に改編
	四日市北(定時制)	商業科を情報ビジネス科に改編
15	桑名	商業科を募集停止
	松阪商業	国際経済科を情報ビジネス科に、国際情報科を情報システム科に改編
16	亀山	情報オフィス科をシステムメディア科(情報学科)に改編
17	神戸	商業科を募集停止
	津商業	国際会計科を募集停止
	上野商業	商業科・情報経済科を情報ビジネス科に改編
	みえ夢学園(定時制)	商業科を募集停止
18	四日市商業	国際関係科を募集停止
	白山	商業科を情報コミュニケーション科に改編
	北星(定時制)	四日市北を改編(通信制課程併置)し、情報ビジネス科を設置

現在では、四日市商業、津商業、松阪商業、宇治山田商業の独立商業高校への拠点化が完成し、4校が互いに切磋琢磨しながら三重の商業教育をリード

し、高度資格取得等において成果を上げている。

●資格取得状況（三重県・商業学科のみ）

名称	種別	H15	H16	H17	H18	H19
情報処理技術者試験	ソフトウェア開発	0	3	2	4	1
	基本情報	16	12	10	11	12
	初級シスアド	12	50	33	42	64
簿記検定	2級	109	128	84	190	113
実用英語技能検定	準1級	0	0	3	2	2
	2級	22	19	33	36	38
	準2級	79	85	104	78	87

●全商3種目以上1級合格者数の推移（三重県）

年度	13	14	15	16	17	18	19
人数	33	37	53	87	111	124	190

各種事業にも積極的に取り組んでおり、県の事業としては、平成19年度から「学校・地域との協働によるキャリア教育実践事業」の中で、商業高校の特色を活かした生徒のキャリア発達支援にも取り組んでいるところである。

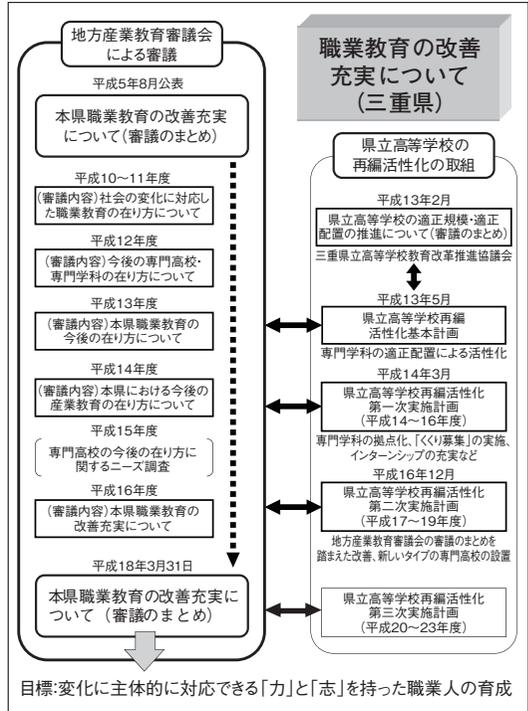
●学校・地域との協働によるキャリア教育実践事業（平成19年度・商業学科関係）

- ◇「専門性」と「志」を育む高校生サポート
四日市商業高校：情報処理科において、システムエンジニアと連携したシステム開発により、課題解決
松阪商業高校：空き店舗での実習、オリジナル商品の企画開発により、生徒のチャレンジ精神を育成
- ◇各学校段階を通じた系統的なキャリア教育実践研究
津商業高校：津地域の小中学校と連携し、キャリア教育及び起業教育に関する効果的な学習プログラムを研究開発

国の事業としては、平成17年度から3年間、宇治山田商業高校が「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール」の指定を受け、「ビジネスシーンで求められる英語運用能力の育成」をテ-

マに、先進的な英語教育の実践研究に取り組み、資格取得等において成果を上げたところである。

●職業教育の改善充実について～地方産業教育審議会の審議の流れと県立高等学校再編活性化の取組状況



本県では、進行する少子化などの社会の変化に対応し、学校配置の適正化に向けた取組として、「県立高等学校再編活性化基本計画」及び「実施計画」を順次策定し、学校の再編活性化を推進している。

特に、職業に関する学科の改編等については、三重県地方産業教育審議会の審議のまともを踏まえながら、地域や産業界との連携を重視して進めているところである。

さらに、産業界や地域社会の幅広いニーズに応えるために、企業や大学等と連携した弾力的な教育課程の編成や、学科の枠を超えた科目履修ができる総合選択制の導入等の新たな改革が求められており、伊賀地域においては、平成21年度に、農業、工業、商業、福祉の4学科をベースに魅力ある多様なコースを設置した、本県初の総合専門高校の開校が決定している。

これからの商業教育では、大学等に進学して専門分野をより発展的に学ぶことを視野に入れ、経済社会の変化に主体的に対応できる人材の育成を目指すことがさらに求められるようになる。

このようなことから、法曹関係等の専門家や大学・専門学校と連携したセミナーを開催するなど、知的財産、金融、観光、法律、税務、会計といった専門分野の教育の充実を図ることを重視して進めていきたいと考えている。

●独立商業高校4校における主な地域連携事業
(平成19年度)

学校名	内容等
四日市商業	・税理士による税務講座の実施 ・四日市駅前商店街の調査・研究を行い、まちづくりのアイデアを提案
津商業	・津商工会議所との連携による「若者チャレンジショップ」の出店、オリジナル商品「梨っ娘」の開発 ・司法書士による知的財産特別セミナーの実施 ・親子IT講習会及び高齢者対象のいきいきIT講習会の実施
松阪商業	・松阪市駅前通りベルタウンの空き店舗を活用した「あきない屋」の出店、オリジナル商品「香り米」等の開発 ・ふるさとオープンスクール「パソコン教室」の実施
宇治山田商業	・伊勢市駅前「おいない市場」に、山商ショップ「わかば」を出店、「わかばのパン」等の商品を開発 ・二見町英文ホームページの作成 ・「金融教育公開授業 in 伊勢」を実施

●津商業高等学校「若者チャレンジショップ」
(平成19年11月23～24日出店)



●松阪商業高等学校「あきない屋」
(平成19年11月23～24日 全国産フェア沖縄大会に出展)



本県では、平成20年度から、「美(うま)し国おこし・三重」をテーマに、地域づくりを基本とした多彩な催しの実施を計画している。

「商業」を学ぶ高校生が、地域資源を活用した新商品の開発や地域づくりの提案を行うなど、「美(うま)し国」を情報発信し、三重を元気にする取組の担い手となるよう、これまで以上に関係機関と連携し、高校生の活躍の舞台をつくっていききたいと考えている。

●「金融教育公開授業 in 伊勢」
(於：宇治山田商業高等学校 平成19年11月22日実施)

◇公開授業(課題研究)

「ファイナンシャルプランナーの視点で読む経済ニュース」



今後の商業教育の活性化においては、教職員が、最先端の専門分野の知識・技術等を身に付けることが不可欠である。また、関係機関と連携した教育活

動を展開していくために、コーディネーター力を身に付けることも重要である。

生徒の学力と学習意欲を向上させることが大きな課題となっていることから、授業改善システムを整備し、学校や校種等をこえたプロどうしの学び合いの場を積極的に設定したいと考えている。

これまででも、三重県高等学校商業教育研究会を中心に、分野別に公開授業や研修会等を進めてきているが、改訂される学習指導要領の内容を視野に入れながら、新たな挑戦がスタートするよう、様々な形で力を尽くしていきたい。

最後に一言、三重の商業教育については、他県に比べて学科の改編や統廃合を積極的に展開してきたように思うが、「ピンチをチャンスに！」を合い言葉に進めてきた結果、県全体の商業科教員の交流が活発となり、切磋琢磨しながら力強く取り組むことができていていると考えている。

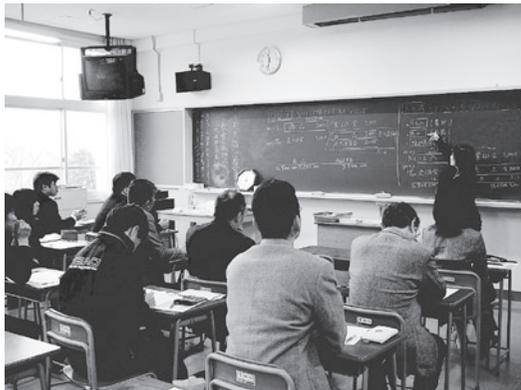
10年後、商業教育の役割はさらに大きくなっていくはずである。このことがしっかりと認識されるよう、内外で新たな仕掛けをしていきたい。

●「簿記会計セミナー」

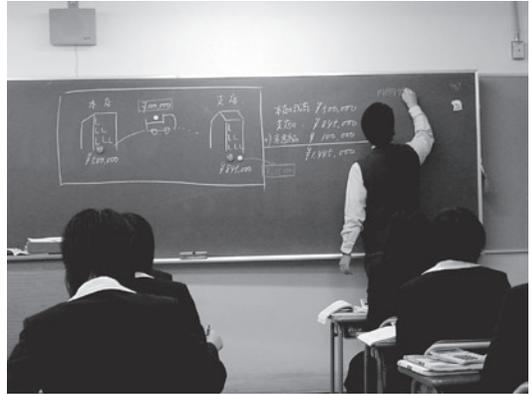
(於：四日市商業高等学校 平成 19 年 11 月 29 日実施)

◇研究授業 簿記

「三分法の導入の仕方についての指導法」
(教員間での研究授業形式で実施)



◇公開授業 会計「内部利益の控除」商業科2年



<参考データ>

●学科別在籍生徒数の推移

(文部科学省「学校基本調査」より)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
普通科	42,230	40,290	38,864	38,065	36,940	35,581	34,591
農業科	1,867	1,881	1,892	1,896	1,915	1,872	1,821
工業科	5,847	5,714	5,642	5,591	5,502	5,360	5,177
商業科	4,940	4,749	4,524	4,364	4,071	3,731	3,480
水産科	277	281	253	261	257	281	282
家庭科	1,722	1,700	1,538	1,304	1,120	1,047	1,051
情報科	0	0	0	81	159	235	231
福祉科	0	0	0	157	238	240	230
総合学科	1,986	2,446	2,949	3,147	3,296	3,464	3,545
その他	2,277	2,290	2,313	2,149	2,179	2,209	2,211

●商業科と総合学科の在籍生徒数の推移

